



けいび インフルエンザの経鼻ワクチンについて

いち早くアフターコロナへ舵を切った米国では、昨年インフルエンザの大流行が報告され、本年度は国内での大規模な流行が懸念されています。季節性インフルエンザを予防する手段として、流行前のワクチン接種が有効ですが、今まで国内では注射をするしかありませんでした。発売は来年度からとなりますが、新たな選択肢として、インフルエンザの経鼻ワクチンが承認されましたのでその特徴をご紹介します。

☆経鼻ワクチンとは?

経鼻ワクチンは鼻の中に噴霧することで予防効果をえます。国内での承認は初めてですが、このタイプのインフルエンザワクチンは、既に米国、欧州を含む海外30以上の国または地域で使用されています。

☆今までのワクチンとの違いは?

従前のインフルエンザワクチン注射製剤は不活化ワクチンです。これは、病原体となるウイルスや細菌の感染する能力を失わせた(不活化)ものを原材料として作られ、自然感染や生ワクチンに比べて生み出される免疫力が弱いため、1回の接種では十分でなく、追加接種が必要になることがあります。今回承認された経鼻ワクチンは、弱毒生ワクチンです。病原体となるウイルスの毒性を弱めて病原性を

なくしたものを原材料として作られ、毒性を弱められたウイルスが体内で増殖して免疫を高めていくので、接種回数が少なく済みませんが、十分な免疫ができるまで時間を要します。また、生ワクチンであるため発熱等の副作用が起こる可能性があります。不活化ワクチンに比べて接種対象年齢が限られています。



☆経鼻ワクチンのメリットは?

経鼻ワクチンは、鼻から吸入するので注射針が不要で接種時の痛みがないだけでなく、鼻や口などの呼吸器粘膜からの感染予防への効果も期待されています。これは、経鼻ワクチンが鼻やのどの粘膜に取り込まれると、侵入したウイルスに対する「抗体」

が粘膜表面に大量に放出されることにより、門番のように体内へのウイルスの侵入を防御すると考えられています(粘膜免疫)。この粘膜免疫によりウイルスのタイプが違った場合でも効果が見られたとの研究成果も報告されています。

☆経鼻ワクチンの今後について.....

従来のインフルエンザワクチンは、注射による全身免疫を誘導することで感染予防効果よりも重症化予防効果が高いものでした。経鼻ワクチンは、粘膜免疫と全身免疫の双方を誘導するため、呼吸器感染症に対して、より高い感染予防効果が期待されています。既に国内では、より副作用の少ない不活化インフルエンザワクチン製剤が開発中であり、早期の承認が待たれるところです。

今回ご紹介した経鼻ワクチンはワクチン全体の中では、まだ限られた存在ですが、同様の呼吸器感染症である新型コロナに対する経鼻ワクチンの開発が国内外で加速度的に進められています。

成人でも痛みを我慢して注射をしなくても経鼻ワクチンで季節性インフルエンザや新型コロナなどの呼吸器感染症の予防ができる日も近いかもしれませんね。